

森吉山麓高原自然再生事業実施計画の変更について

1 これまでの取組状況

- 平成17年度に、約0.6haにおいて天然下種更新補助作業を試験的に実施。稚樹の発生状況は、場所にもよるが6割の箇所が発生本数の増加が認められるため一定の効果があつたものと思われる（耕耘前後で同じプロットとしていないため一概には言えない部分もある）。
- 秋田県森林技術センターにおいて、平成17年度から事業地周辺で採種したブナを育苗。これまでに約5万本の苗を生産。
- 平成18年度からの植栽実績は約4.4ha（実面積）。なお、森林技術センターで生産したブナ苗は、平成20年度春から植栽に供しており約1.9ha（実面積）の植栽に使用。

2 実施計画の変更に至った背景

- これまで、秋田県主体の事業実施として、自然再生に係る取組を進めてきたが、民間団体や地域住民等と連携した自然再生活動を導き出すことが課題となってきたところ。
- 現在、物理的な自然再生の成果は判断しにくい状況であるが、自然再生協議会等では、長期的に森林再生を進めていくための方策等についての議論が高まりつつある。
- 植栽後の経過観察も含め、長期に亘って自然再生を実施するためには、専門家、地域住民、民間団体などの幅広い参加を得ながら、具体の活動を実施していく体制づくりが急務となっている。

3 変更のポイント

- 自然環境学習・体験において、地域住民や各種団体等が自然再生事業に携わることができる体制の構築を図る旨明記。
(第3章「3-3自然再生の意義と効果」、第5章「5-2取り組み方針」)
- 具体的な活動が実施されている部分について、現状に併せてより明確に内容等を記載。

これまでの取組み状況の写真



育苗
(森林技術センターの苗畑)



自然再生協議会
(現地視察)



植栽事業
(H20春植栽)



自然環境学習
(ブナを植栽)